

JC PRESS 新春号

発行所/社団法人 京丹後青年会議所 編集/広報委員会

社団法人 京丹後青年会議所 2012年度スローガン

まちを照らす光となれ!

～自らの成長が地域に希望を与える～



JCI 社団法人 京丹後青年会議所
2012年度理事長 沖田真奈美

「新年ごあいさつ」

あけましておめでとうございます。
平素は私も社団法人京丹後青年会議所
に對しまして、温かいご支援・ご協力を賜
りありがとうございます。

昨年と同様に家族揃ってお正月を迎えら
れることに、心から感謝した方々も多かつ
たと思います。私もいつもと変わらぬ日常
を当たり前のようには繰り返すことが、いか
に幸せでありたいことなのだろうか、いか
に改めて感じながら新年を迎えさせていた
きました。この穏やかな日常がずっとこの
先も続くように、そしてこのまちがもっと
明るく、輝くまちとなるように社団法人京
丹後青年会議所メンバー一丸となって地域
の発展に貢献したいと思っております。

今年4年前に京丹後青年会議所ホーム
ページへ移行した京丹後青年会議所新聞を
再び発行することと致しました。東日本大
震災以降、形あるものではなく、目に見え
ないものに価値を見出し、家族や地域の
人々との絆を深めることが一層強く求めら
れていると感じます。この新聞の発行によ
りホームページの閲覧者だけではなく、世
代を超えた京丹後市内の幅広い方々と繋
がりを持ち、手を取り合い、共に豊かなま
ちづくりを進める一助とすることができると
考えております。

本年度も京丹後市の皆様のご理解とご協
力をお願い申し上げます。新年のご挨拶にか
えさせていただきます。

JC PRESS 新春号

理事長 所信



はじめに

明るい豊かな社会だと感じ
る時は果たしてどんな瞬間な
のでしょうか。

青年会議所の目的は「明る
い豊かな社会」を築くことで
す。物質的に豊かで便利な社
会になった今、私達の役割は
心の豊かさ、精神的な豊かさ
を醸成することへ移行してい
ると考えます。特に、目の前
の全てが破壊され、命のほか
なさを日本中が痛感した東日
本大震災以降、形あるもので
はなく、目に見えないものに
価値を見出し、心の繋がりを
より求めるようになっていま
す。そしてどんな困難をも乗
り切ることが出来る強さと英
知、すなわち生き抜く力を養
うことが問われていると考え
ます。

地域の発展のために 自己の成長を図ろう

地域の発展のために何が
できるのでしょうか。

少子高齢化・人口減少が急
速に進む京丹後にとって、ま
ちの将来を大きく左右する私
達青年層の役割は大きく、重
責を担っています。まちの將
来のために、研修を通じて自
己研鑽に力を注ぎ、会員一人
ひとりが目に見えない強さや
英知、そして生き抜く力を高
めていきましょう。一度身に
付けた英知はどんな状況にな
っても、再び立ち上がれる強
さ、つまり生き抜く力を与え
てくれるはず。ひとづく
りはまちづくりと言われま
す。自己の成長なくしてまち
の発展は望めません。地域の
発展、活性化のために、まず
は自分自身を磨きます。

地域のネットワーク づくりを進めよう

私達は地域の方々と確かな
絆を築けているのでしょうか。

今は心の豊かさ、精神的な
豊かさが求められています。
目に見えないものを大切にし
なければならぬと誰もが気
づいているはず。そんな
中、今後私達が、一層育んで
いくべきことのひとつが「人
人との絆」ネットワークだと
考えます。形式に拘らず、
柔軟な体制を取り、45周年ピ
ジョンの提言にあるように、
「地域で頑張る人達」とネッ
トワークを積極的ににつくり、
連係を強化してまいります。

常に前向きの変化を し続けよう

私達は常に進化し続けてい
るのでしょうか。

青年会議所の46年に渡る歴
史と伝統を守らねばという責
務と時代に即した新しいスタ
イルが求められているという
現実を前に、まさに時代の転
換期にあると実感していま
す。組織も生物と同じよう
に、生き残るために環境や時
代の変化に対応し進化し続け
なければなりません。そのた
めには「今のままで良いの
か」と問い続ける文化を育
み、イノベーションを繰り返
さなければなりません。進化
を続ける団体は魅力的な組織
となり、自然と人々を惹きつ
けるものです。そんな魅力あ
る青年会議所を創り上げてい
きます。

青年らしく明るく元 気に行動しよう

私達は地域の方々へ未来へ
の希望を示せているのでしょ
うか。

青年会議所が40歳までの青
年によって構成されている理

子ども達に語り継げ る大人になろう

私達はこのまちの魅力の子
ども達に語り継げる大人でし
ようか。

丹後の美しい海、古代丹後
王国に遡る悠久の歴史、40箇
所に上る豊富な温泉や海
の幸、山の幸は多くの方を魅
了してきました。その魅力を
子ども達に語り継ぐことは私
達大人の責任です。また、自
分のまちについて知識を深
めることはまちづくりやまち
の発展に欠かせないことで
す。これまで積み重ねてきた
経験を活かしながら諸団体と
連携し多くの学びや気づきを
私達が得ることで、子ども達
にまちの魅力語り継げる大
人になれると確信します。

むすびに

「多くの影を取り除くには
一筋の陽光で十分である」
聖フランシス

中世ヨーロッパの最も著名
な聖人の一人であり、国や教
派を超えて世界中の人々から
愛されている聖フランシス
は、困難な中にあってもたつ
た一筋の光があれば人は未来
への希望を見ることができ
ると説いています。環境、経
済、震災、高齢化等多くの難
しい問題を抱えています。40
歳までの限られたこの時間
を、青年らしさを大切に、明
るく元気に行動します。そし
て「あなたのお陰で勇気づけ
られた」と言われるような、
一筋の光となるよう自らを磨
き、まちを照らす希望の存在
となるよう活動します。

JC PRESS 新春号 巷談

昨年3月11日、日本観測
史上最大の地震が発生、
10mを超える津波が沿岸
部のまちが襲われるな
ど、東北と関東の広大な
範囲に被害をもたらした。
誰も自然の猛威に
呆然とし、これまで平穩
に人々の生活があったま
ちが容赦なく壊れ行く現
実をリアルタイムでテレ
ビやラジオを通じて体感
し、恐怖と絶望を味わつ
た東日本大震災から早や
一年が経とうとしている
▼地震大国「日本」とよ
く耳にするが、誰が今回
のような事態を予想して
いたのだろうか。世界に誇
れる日本の防災システム
を持ってしても自然の猛
威を前に歯が立たなかつ
たことは事実である。今
後、更なる国や地方自治
体での防災システムの構
築や各地域の防災組織と
の連携が必要になってく
るのではないかと私達が
生活する京丹後市でも、
災害時における様々な防
災対策はなされている。
だからといって、安全や
安心に對し、「大丈夫だ
ろう」という過信は禁物
だ。行政や自主防災組織
と住民がより密に連携を
図り今一度、災害対策に
関心を持つことは必要だ
ろう▼また、自分の住む
まちや近所にも関心を持
ち、地域の人々と顔を合
せ、触れ合うことも大切
だろう。そうすること
で、いざという時に助け
合える関係づくりができ
るのではないだろうか。
昨年の漢字が「絆」であ
ったように、今年には家族
や地域の方々との絆をも
う一度見直し、深めてい
けるような年になりたい。

裏面
「新春対談も
ご覧ください」

JC PRESS 新春号 対談 新春

地域の ネットワークづくり

(社)京丹後青年会議所では、地域で頑張る人達とネットワークを積極的につくり、更に絆を深めて参りたいと考えています。広報委員会では、行政・各種団体と互いの思いを共に語り合う場を設け、その様子を市民の皆様にも広く発信して参ります。第一回目の新春号は、京丹後市の中山泰市長と、当青年会議所理事長 沖田真奈美との対談の内容をお届けします。

沖田 本日はお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。また、京丹後青年会議所の活動にいつもご理解とご協力をいただいております。と、心より感謝申し上げます。

さて、2010年の京丹後青年会議所45周年事業の時に45周年ビジョンを掲げさせていただきました。その中で、「このまちで頑張る人達と手を取り合っ

て、共に夢を語り合い、翌日にはその夢の実現に向かって動き出せる行動力のあるまちをつくりたい」と謳っております。そのためには、本当の意味でのネットワーク、絆づくりが一番大切だと思っております。もちろん、急にはネットワークや絆はできないと思っております。日頃からの繋がりを大切に、いざという時に助け合える本当の絆づくりが重要だと思っております。目に見えないもの、形のないものに価値を見出すということに、もっと焦点を合わせていきたいというのが今年の大きなテーマの一つです。京丹後市でも協働ということで様々な団体の方々と事業を進められていると思っております。京丹後青年会議所はもとより、私達以外にもたくさんある

NPOやNGOなどの団体について期待されていることをお聞かせ下さい。

市長 大変素晴らしい大切な視点だと思います。まちを活性化していくためには何が必要かという時に、住民の皆様、または住民の皆様方のつくるグループが、まちづくりを積極的に、主体的にやってくかということが大変重要だと思っております。その中で、例えば、住民のグループ同士が絆を持って接することによって、自分達では気付かなかったことを改めて気付かせてもらえ、新しい発展の可能性を気付かせてくれるというようなこと

もあると思っております。そして、そのような可能性に向かって歩を進める上で、団体が相互に連携をしていくことで、辛いことや困難なことがあっても、それは半分になっていくこと、それは半分になっていくと思っております。逆に喜びがあれば、それは倍増されることになると思っております。絆の力を繋ぎ合わせ、一人ひとりの力、一つひとつの絆を縦横に重ね合わせていくことで、それ自体がまちづくりの大きな原動力になっていくのだと思っております。また、我々市と

致しまして、それをバックアップさせていただきながら市と住民の皆様が協働して様々なまちづくりができる環境整備もしていかなければならないと感じております。

青少年の育成について

沖田 市長もご存知かとは思いますが、小学生ウルトラクイズという事業をやっております。今年で5回目を迎えます。これは、子ども達に、自分達の近所のことだけを知るのではなく、もっと京丹後市全体を広く視野を広げて欲しいという思いからスタートしたものです。そのため、学校で勉強するだけではなく、実際の現場に行き、見て、触れて、体感するということを大切に、毎年丹後海陸交通様や教育委員会様のご後援をいただきながら開催をさせていただいております。今年

は5年目という節目の年でもありますし、私達だけではなく他の諸団体の方々のご協力も仰ぎながら少し規模を拡大したいと思っております。そこで、このように私達も青少年の育成には色々とお知恵を絞っているわけですが、市長の青少年育成についてのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

市長 そうですね。子ども達も、地域にとっても大切な宝です。ですから、子ども達にはもっと京丹後のことを知って欲しいですし、好きになって欲しいと思っております。

大人達は、子ども達には無限の可能性があると、限らない真の愛情を注いでいくことが一番大切だと私は思います。その中で子ども達の伸びゆく力が育まれていくのには、周りの人の真剣な愛情だと思

います。そういうものがあれば、自分の可能性を感じながら立ち上がり伸びていくのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思



2011年9月例会
「三者交流会～京丹後の未来の為に～」
京丹後市、京丹後市商工会青年部の皆様に参加いただき、三者による意見交換会を開催。



2008年～継続
「小学生ウルトラクイズ in 京丹後」
京丹後市教育委員会の後援、多くの地元企業の協賛をいただき、市内約100名の小学生が参加。丹後の文化や歴史をクイズ形式で学ぶ。



沖田 ありがとうございます。現在、京丹後青年会議所のメンバーは少人数ですが、ポテンシャルは非常に高く個性溢れるメンバーが揃っています。これだけの人がいるのであれば、このまちは大丈夫だといつも感じております。感覚的に、あと少しで良い方向に向かえるように思うのですが、そのきっかけを見つけての何年も悪戦苦闘しているような気がします。

市長 悪戦苦闘の過程が良い意味で心の中で半歩離れて楽しまれたら良いと思

います。あと一歩の何かをつかむために苦闘する過程がとても大切だと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

います。壁が高ければそれだけ乗り越えた時に大きく発展するのだと思

2012年度 社団法人 京丹後青年会議所 役員

- 理事長 沖田真奈美
- 直前理事長 廣瀬雅也
- 副理事長 水田博基
- 副理事長 金盛将士
- 副理事長 由利彰基
- 専務理事 小松悦之
- 専務理事 平林巧
- 広報委員長 水戸照人
- 研修委員長 松田国男
- ネットワーク委員長 吉岡信勝
- 青少年育成委員長 野木教貴
- 事務局長 好井孝夫
- 監事 友田幸徳
- 三木健徳

編集後記

京丹後青年会議所新聞の新春号を発行するにあたり、ご協力を賜りました皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。広報委員会では、この京丹後青年会議所新聞を発行することで、私達の活動を地域の方々に少しでも知って頂き、市民の方々と手を取り合っ

て共にまちづくりを行なっていくための一つのきっかけにしたいと考えております。次号は7月と12月にも発行を予定しておりますので、是非ご覧頂きたく思います。今後とも京丹後青年会議所新聞を何卒よろしくお願

い申し上げます。本日は貴重なお話をありがとうございました。

「一生の友に出会える」
人は誰でも、悩み判断に迷う時には誰かに相談したくなるもの。それが会社経営のことなら尚更だ。そんな時、自分と同じ立場で相談できる友がいる。それだけでもきっとあなたは救われるはず。かけがえのない一生の友ができる。あなたの入会をお待ちしています。

JCI 京丹後青年会議所
会員募集中

www.kyotangojc.com
京丹後JC WEB 京丹後JC 検索